

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493800336	事業の開始年月日	平成28年4月1日
		指定年月日	平成28年4月1日
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホーム ソラスト勝田		
所在地	( 224-0034 ) 横浜市都筑区勝田町655		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和5年11月8日	評価結果 市町村受理日	令和6年3月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設運営計画として活動する。 ①地域連携・参加。 ②介護支援・医療体制の充実化。 ③職員のスキルアップ（本社研修・施設内研修・個人研修（動画）外部研修
--

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年12月11日	評価機関 評価決定日	令和6年2月22日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は、東横線「綱島」駅からバスで約20分の「勝田折返し」から徒歩約7分、又はブルーライン「仲町台」駅から徒歩約15分の高台にあります。緑に囲まれた静かな住宅地の軽量鉄骨2階建てのグループホームです。法人は、医療・介護・教育などの分野で、全国展開しています。</p> <p>&lt;優れている点&gt; 入居者への良き支援の為の第一条件として、管理者を含む職員間や法人など支援に関わる全ての人たちのコミュニケーションを大切に良き人間関係を構築しています。毎月の社内研修やグループワーク、エリアマネージャーとの直接面談など、法人との交流も活発におこない、情報を共有しています。また、「地域に貢献」という法人理念のもと、町内会の祭りや地域夜間パトロール、事業所の納涼祭参加の声掛けなど積極的に交流を深めています。つながりの中から、民生委員を通じて都築区からの入居者受け入れ依頼があるなど、地域に溶け込むように努めています。また、職員の提案を積極的に受け入れています。入居者の得意技を掘り起こし、生きがいを見出し知り得た情報を職員間で共有し支援につなげています。暗算が得意な人や、塗り絵好きな人には仲間を見つけて競い合い集中力を発揮するなど、利用者のやりがいをから安心して生活できるように努めています。</p> <p>&lt;工夫点&gt; 利用者が一番楽しみにしている食事は、「食の楽しみは身心の健康を保つために必要不可欠」との思いで、調理師免許を持つ職員を中心に手作りしています。また、急ぎの情報は申し送りノートだけでなく、管理者・職員間で設定のSNSアプリを通じて、適時に共有できるようにしています。</p>
--

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ソラスト勝田
ユニット名	だいち

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社の指針を受けて事業所内の理念を掲げ、前年度の反省を踏まえて地域に根ざした認知度向上の活動をしていく。入居者の状況は重度化（車いす）し、定期的にプチ会議、月1回のユニット会議を行い、全職員で統一したサービスを提供する。	「地域に貢献」という法人理念を踏まえ「楽しいホーム」が事業所方針です。入居者の思いや能力を引き出し、職員も自由に発言・提案し、一緒になって明るい事業所を目指しています。朝夕2回の「プチ会議」で、行事企画などを活発に話し合っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内自治会の一員として、運営推進会議に参加して頂いている町内会長、民生委員の方々から情報を頂き、入居者様と一緒に参加交流を展開している状況。（地域、施設の行事・夜間パトロール・防災訓練）（現在も、コロナ状況の為、交流出来ていない）	町内会の敬老会・祭や夜間パトロール・町の防災訓練にも参加していました。納涼祭など事業所の催しには招待するなど、地域との付き合いを活発に行っています。「百まで生きよう」とプリントしたオリジナルTシャツを作り、地域での知名度アップにも努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	会社の運営方針を受けて地域貢献の企画運営を変わらず行う予定である。（本来であれば、8月の納涼祭）（現在はコロナ状況の為）	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、堅苦しくやって終わるのではなく、雑談も入れ、意見交換をしている。	運営推進会議には、町内会長・都筑区役所・地域包括支援センター職員・4人の民生委員に加え、家族・法人エリアディレクターが出席しています。月間目標・利用者の健康状態・行事報告と計画・事故・地域との関係などを報告し、質疑応答をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活受給者が6割程で区など行政機関と密な関係を構築することは重要と考えて展開している。市区主催の講習などには、可能な限り参加している。	介護度更新や区分変更の為、家族の事務代行で都筑区高齢障害課と、生活保護受給者の関係で生活支援課との連携があります。民生委員を通じて、区から入居依頼が来ることもあります。運営指導には、横浜市の介護事業指導課からの参加も得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職員の理解度を把握した上で、「拘束するとはどんな事か？」を事例を基に入居者様の安全・快適なケアに努めている。身体拘束の社内研修も実施している。	身体拘束適正化委員会で、管理者は職員の理解度に応じて具体例を挙げながら説明しています。ソラスクール（社内研修）の受講や、年度ごとの内部監査では資料や記録のチェックを行っています。安全とスピーチロックに繋がる声掛けとのバランスについては、入居者の安全を優先的に考えています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「虐待は犯罪」という事を職員に発信している。拘束同様に介護サービス提供者として、言動への助言だけではなくOJTの一環でスキルアップに努めている。職員の心理的ストレスに対しては対話し、思いを聞き入れ、注意を払い、防止に努めている。	令和6年からの虐待防止措置の義務化に備えて、既に運営規定の中に明記し準備を整えています。法人研修のソラスクールでの動画を使つてのグループワークや、日頃のOJTでも意識向上に努めています。職員のストレス防止の為に規定の休暇取得を必須としています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人の方が1名いるので、区担当者など行政の方からの情報提供並びに後見人との来訪時の会談・メールなどを通じて学ぶ機会を得られている。この分野は管理者だけではなく、エリアディレクター・施設職員・行政の三位一体で理解し、支援できる環境、体制作りを努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	今年は1名入居され、本社・施設の受け入れ態勢や設備が構築されているので、今後も変わらない健全なる方針・スタンスで運営展開していく。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者並びにご家族等からご意見、不満等の声には記録に残して速やかに職員に伝え、周知対応にて早期解決、改善に取り組んでいる。また運営推進会議を利用し情報提供を行い助言をもらっている。ご家族に対しては、来客時、電話での運営に反映を図っている。（コロナ禍の為、状況に応じて）	6月から面会を再開しています。運営推進会議で参加している家族の意見も聴いています。8月の会議では、家族からコロナワクチン全回接種は本当に必要なのか、との質問も受けています。行事や日常生活の動画配信も行いホームでの生活を報告し、家族から色々な意見も貰っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	元々リーダーからという立場だったためか、職員から意見が言いやすい環境作り・雰囲気作りが出来ている。内容にとっては本社へ働きかけ、提言としている。また、必要に応じて職員1人ひとりと対話の機会を設けている。	職員とのコミュニケーションに重きを置いています。職員からの提案には、まずはやってみるという方針を周知することで、職員から活発な提案が出ています。空気清浄機の設置や、利用者が楽しめるように浴室に富士山のポスターを貼ったり、「ゆ」の暖簾作るなどは提案から反映した事例になります。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社（地域担当ディレクター）が適宜来訪して、管理者との情報交換や現場職員との対話で現状把握を図っている。管理者はリーダーと職員の評価を行い、必要に応じて面接を実施し、職員の現状把握とモチベーションアップに努めている。	ブロック長やエリアディレクターが現場の把握に来訪しています。職員間で不公平感が出ないように、リーダーの意見も聴きながら職員の評価をします。信頼関係の構築を大切に、管理者・職員・入居者間の会話を増やし、コミュニケーションを図ることを心掛けています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月、本社研修（必須）・社内研修（必須）外部研修・講座はスキルアップの一環で積極的に参加をしている。（コロナ禍の為、状況に応じて）	職制別の法人研修や毎月の事業所内WEB研修、新人職員は3年間の基礎研修など、法人としてスキルアップに力を入れています。神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会などの外部研修も受けています。資格取得者には、シフトの日程調整などで支援をしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	横浜市グループホーム協議会主催の研修情報などから、同業他社や他事業所での交流・助言等施設全体の底上げ・個人のスキル・レベル向上を狙った活動をしている。（コロナの状態、人員不足にて交流等は出来ていない）		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人が入居される前には、ご家族も含めサマリー等でのアセスメントを実施している。入居者様が安心・安全で居心地の良い生活ができるように日々、環境整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	離れて暮らすご家族の不安心理は格別なものであると思っている。その思いを少しでもキャッチして、暮らしぶりや健康面の情報などを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談の段階では、入居を前提でお話するのではなく、ご家族に対して安心感を持って頂けるよう努めている。又、ご家族の方が何かを求めているのか等を見極めて、そのご家族にあったサービスを心掛けていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の大先輩である入居者の人格を尊重し、生活の中で症状、状態を把握して自立及び支援の姿勢を心掛けている。その方がその方らしく生活していくために、職員間で協力しながら今後も継続して取り組んでいく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人及びご家族とは、電話や来訪時などに情報交換を図っている。このスタンスを保ちながら、更に工夫を重ねて信頼関係を深められるよう取り組んでいる。（状況に応じて対応している）		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所や人との関係が途切れないように心掛けている。現在は、誕生日のケーキを馴染みの所から届けてもらっている。（定休日でも対応して頂いている。（現在もコロナ、インフルで外出が出来ていない）	外出が困難な時期でも2ヶ月ごとに訪問理美容サービスを利用しています。塗り絵が得意な友人の来訪により、2人で競うように集中して塗り絵をしている人もいます。暗算が得意な人も入居者同士で行えるようにサポートしています。入居者のふとした会話も聞き逃さないように心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	性格の違う方達の共同生活のため、職員が一人一人の特徴をしっかりと捉え生活支援を行っている。時には入居者間のトラブルが発生してしまう事もあるが、早めに職員が対応することで、険悪な雰囲気や入居者が孤立等しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今まで築き上げてきたご家族の関係を出来るだけ終わらせる事なく、電話や来訪時、外出で交流を保ち・情報交換に努めてきた。今後もこの方法で支援提供に取り組んでいく。（現在もコロナの状況により）		
<b>III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症の状態が軽度の方・重度な方がおり、自分の意思を伝えることが出来る方・出来ない方など様々である。職員の働きかけや日常会話の中からその方の思いを引き出すよう心掛けている。そして、キャッチしたものを職員間で共有し、その方に合った生活支援を提供している。	生活歴や家族からの情報を参考に会話のキャッチボールができるような声掛けをしています。意思表示が困難な人へは「はい」「いいえ」の2択にすることや、首を縦横に振るだけの質問にしたりする工夫をすることで、自身に選択してもらうことを大事に支援しています。表情などからも思いを汲み取るように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者の歩んでこられた生活の足跡や背景などの情報はしっかりと職員はとらえて支援している。入浴や散歩などの日常生活でのコミュニケーションは新たな発見情報の源・宝庫であり支援には有効策の一つとして取り組んでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員は、入居者一人一人の症状・言動の変化などに対して、情報の共有に努めて支援している。職員間だけではなく、医療機関、関係分野全てと連携し入居者の安全・安心生活に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者の日常生活や心身状態などを把握し、管理者や職員、ケアマネジャーを中心に、ご本人やご家族の意見・要望を取り入れて作成している。定期的にモニタリングをしチーム全体で支援提供している。	ケアマネジャーを中心に予め医師からの意見を参考にし、3ヵ月に1回のモニタリングをしています。介護計画に「ぬりえ」を取り入れた事で集中力が回復し、自らの意志で行うなどの向上がみられた利用者もいます。できない事に着目せず、得意分野に合わせて見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者全員、毎日の生活の様子をタブレットにケース記録を残し、発語や症状、いつもと違う言動や様子などを特記項目として残し共有化を図っている。介護記録に残すだけでなく、必要に応じて医療・ご家族にも情報を提供し、入居者が安心できる生活環境作りに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	加齢と共に心身、状態などが変容してきている実態・現実をしっかりと捉えて、関係機関やご家族にも情報提供して柔軟な取り組みを実行に移す体制で努めている。（現在は、状況に応じて対応している）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	従来と同様に町内会長及び民生委員、地域包括支援センターや区役所担当者と交信・交流にて資源把握・確保を図っている。音楽療法などのボランティアに訪して頂き、交流を図ることで入居者の癒し環境作り、豊かな暮らしが少しでも出来るための支援に努めている。（コロナの状況にて交流は延期にしている）		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	Dr・Nsの定期検診をし、（週1回）入居者様の医療的健康管理をDr・Ns・ご家族との連携によって、施設として適切な医療環境を提供出来るような体制で取り組んでいる。	希望の外来を受診する場合は家族の付き添いをお願いしています。緊急時の職員間の連携をアプリを駆使して常にコミュニケーションを行うことで緊急時に備えています。また、24時間対応の医療サポート体制がしっかり行えるように平時より連携に努めています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携の一環をして2週間に1回Ns巡回があり、訪問看護を実施している。入居者の日常生活や症状の異常に対して適宜情報交換にて助言・指示・駆けつけ等24時間の体制が整備構築されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	突発的または日々の観察による異変への気付きにはDr・Nsに連絡し指示を受けて対応している。関係する病院のDrやNs、関係者とは相談や情報交換を図って良好な関係の構築に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重症化や看取りに関する内容説明は、書面にご家族に説明し同意を頂いている。来訪されるご家族や遠方のため来所出来ないご家族など様々なので、書面以外にも電話にて要望や方針等の情報交換を行っている。また、運営推進委員会にも情報提供してチーム支援で取り組んでいる。	入居時に重度化した場合や終末期の在り方について説明をし、承諾を得ています。最期を居室で一緒に過ごしたい家族の宿泊を可能にするなど、最良の最期を迎えられるよう利用者や家族の要望に寄り添った支援を心掛けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急車要請時の心構えや行動については、日々の訓練、啓発で体得する必要がある。緊急対応マニュアルは整っているので、職員が少ない夜間帯を中心にしっかりと対応できる体制を取り、これからの実践力強化に努めていく。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設だけではなく地域住民の協力・制限は不可欠だと考える。火災や地震などの災害に対する支援要請を行っている。（防災機器の設置、点検、施設防災訓練、運営推進会議での施設防災情報表の掲示など）防災活動には妥協無用で更に努めていく。	法定2回の訓練より多く、年4回利用者も参加した訓練を実施しています。想定ではなく、実際に寝静まった夜間帯の訓練や、車いすを押して坂の上の小学校まで避難した時間を計測するなど、万が一に備えた実践的な避難訓練を行っています。事業所近隣にある24時間稼働の工場への協力も要請しています。	備蓄倉庫設置の計画が、早めに実行されることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員一人一人が日々の生活支援の中で人格の尊重。プライバシー確保に努めている。この事を忘れることなく更にスキルアップ向上に努め、チームワークに取り組んでいく。	入居前の面談時の会話の様子を踏まえた上で、利用者への言動や距離感を常に留意しながら、敬意と親しみを込めて接するように心掛けています。ホームでの生活が家族で暮らしているように見えるような関係性を築いています。知り得た思いなどは即時に職員間で共有しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の希望や自己決定をして頂く事を最優先としている。職員が毎日、声掛け・雑誌などお話をすることで、本人の思いや希望を引き出すよう心掛けている。また、職員からの一方的な促しはしないようにし、本人の意思を尊重するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	共同生活をする上での1日の流れは設定している。しかし、入居者の過ごされる習慣、ペース、その時の気分、身体状況などによって左右されるのは当然なので、常に柔軟性を持ち入居者支援・サービスの提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	オシャレや身だしなみで綺麗でありたいと思う事は、年齢、時代、老若男女問わずという考えで取り組んでいる。起床時に洗面、整容、季節感のある衣類の着用や購入、訪問理美容サービスの提供を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	加齢と共に食事摂取量が減少してきた方や、刻みやミキサー食へ変更になった方でも、食べる事は入居者の楽しみという事を職員は心得ている。お誕生日の日には、ホールケーキ、ご本人の食べたい物をなるべく聞き入れ召し上がって頂いている。	調理師免許を持つ職員を中心に手作りの食事にこだわり提供しています。「食の楽しみは身心の健康を保つために必要不可欠」と心得て3度の食事を手作りしています。災害の際もせめて食事だけはと、非常食も美味しいものを選んで備蓄しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の栄養を考慮して契約指定業者よりメニューを含む食材発注を行っている。入居者と職員が同じテーブルで食事をする事で、摂取量や嚥下などの状態を観察、チェックし必要に応じてNsなどに情報提供し体調管理を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご本人で出来る方、出来ない方を含めて全入居者に声掛けや誘導をして、口腔ケア・義歯洗浄を行っている。また週一回の訪問歯科往診に入居者の口腔状態や義歯調整、相談を行い清潔保持に努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表にて、排泄リズム・頻度・状態等の把握に努め支援している。入居者によって排泄能力やパターンが違うので、その方に適合した介護用品を使用し、声掛けや指導、介助支援などの対応及びNsとの連携で行っている。また、羞恥心や自尊心にも配慮している。	時間で声掛けをすることによりトイレでの排泄を支援しています。生活の全体から観察し、食事形態を極刻み食に変えたことで、しっかり栄養を摂ることができ、本人の意欲も出てきたことで、日中はトイレで排泄ができるようになった利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	その方にとっては辛く苦しい便秘、便因を理解し、水分摂取の促し、提供・散歩やレク・対話等での運動、また、飲食物への好みの把握と工夫で予防支援に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に午前・午後（日中帯）が入浴タイム設定で提供支援を行っているが、入りたくないと言われる方もおられるので柔軟な対応を心掛けて支援に取り組んでいる。（温泉の湯を使用）当然、羞恥心や安全にも配慮している。	週2,3回、午前中に設定していますが、要望に対応できるよう午後も設けています。入浴時は利用者が一番リラックスでき、1対1のコミュニケーションの場と捉え、会話を楽しみながら思いの把握に努めています。また、雰囲気が出るように装飾にも力を入れています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の睡眠、安眠状態の情報を職員間で共有し、夜間の眠りが浅く安眠が出来ない症状の方には日中の運動・散歩・入浴・寝具交換等の気分転換にも図れるような支援提供に努めている。又、日中での飲食状態や離床時間を長くするように働きかけ、居室の空調などの環境作りにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	その方の個々に処方されている薬は異なる為に、現物と説明書はしっかりと管理されている。又、職員によるセット・服薬ミスさせない仕組みでダブルチェックで安全管理に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除が大好き、食器拭きが大好き、歌が好き、洗濯物たたみ・ボール投げ、TV、塗り絵、散歩が楽しみ等様々で、その方の楽しみや楽しそうな笑顔を引き出す為、支援に取り組んでいる。1日の生活にメリハリをつけて気分転換が図れるように努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その方の希望やご家族からの要望がある時・ない場合でも出来る限りの外出支援（散歩・外食（2、3名））を行っている。又、地域で開催される行事には、町内会長様や民生委員の皆様のご協力で笹竹取り・地域縁日・敬老会などにも参加させて頂いている。（現在も中止）	コロナ禍のため色々な行事が中止になっています。感染を懸念し、外出頻度が減少しているのが現状ですが、天気の良い日には施設の周りを散歩したり、玄関先に設置した外のベンチで外気浴を行い、四季の移り変わりを感じて貰えるようにしています。	コロナ前にできていた行事や自治会イベントへの参加など、コロナやインフルエンザなどが落ち着いたら再開できるよう期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	GH施設の特徴から困難をに伴う支援だが、ご本人にとってお金は重要な想いであると職員は理解して取り組んでいる。日常の金銭管理は、施設にて立替し、翌月口座から引き落としをしている。ソラスト紙幣というものを作り、イベントに使って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	その方から希望・要望があれば適宜対応可能な環境を整えている。稀ではあるが、電話を掛けたいといったケースではプライバシー配慮も行っている。（お部屋にて）又、ご家族からの手紙に返信のケースでは、ご本人の要望で便箋・切手の購入・投函提供などの支援にも取り組んでいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	四季折々の行事に関する飾付けを折り紙など貼り絵で入居者様と職員と一緒に作り上げ掲示して皆で楽しめる教養空間作りに努めている。リビングフロアはもとより、トイレ・浴槽・各テーブルは特に清潔保持、動線での障害物無し、床の滑り無しの提供支援に努め、居心地の良い共用空間作りに取り組んでいる。	キッチンからも目が届くリビングは利用者の様子を把握することができます。また、複数台の加湿器や、空気清浄機を導入して空調管理を徹底したことにより、体調崩す利用者が減ったという効果も出ています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1人でいたい時間帯や誰かと一緒にいたい心情など日々個々に違う。その思いや状態や受容・尊重して会話したり、TVを観たり、思い思いに楽しんで頂ける心地の良い場所作りに工夫を凝らして取り組んでいる。（年1～2回テーブルなどの変更をしている。）		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居された時のレイアウトはなかなか変更に対して困難なケースが多いのが実態で、タンスの中の衣類の入れ方、壁の掲示類（ご家族の写真・好きな絵など）仏壇や可愛がっているぬいぐるみ等、その方の安心できる居室環境作りに努めている。	全室新しくしたエアコンの他、ベットとクローゼットを完備しています。持ち込みのタンスの引き出しには取り出しやすく衣類名の表示シールを貼っています。また、事故防止のため、廊下、共有スペースに加え、家族の同意の下、居室に見守りカメラを設置しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内部の構造上での安全配慮として出来る限りの範囲内でバリアフリー化の改善に努めている。安全・安心を優先に遵法に沿って歩行通路幅の確保や動線域での障害物撤収やフロアのテーブルやソファのレイアウト変更にて車椅子、介助の方をトイレの近くにするなど努めている。		

事業所名	ソラスト勝田
ユニット名	あおぞら

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらい <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらい <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社の指針を受けて事業所内の理念を掲げ、前年度の反省を踏まえて地域に根ざした認知度向上の活動をしていく。入居者の状況は重度化（車いす）し、定期的にプチ会議、月1回のユニット会議を行い、全職員で統一したサービスを提供する。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内自治会の一員として、運営推進会議に参加して頂いている町内会長、民生委員の方々から情報を頂き、入居者様と一緒に参加交流を展開している状況。（地域、施設の行事・夜間パトロール・防災訓練）（現在も、コロナ状況の為、交流出来ていない）		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	会社の運営方針を受けて地域貢献の企画運営を変わらず行う予定である。（本来であれば、8月の納涼祭）（現在はコロナ状況の為）		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、堅苦しくやって終わるのではなく、雑談も入れ、意見交換をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活受給者が6割程で区など行政機関と密な関係を構築することは重要と考えて展開している。市区主催の講習などには、可能な限り参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	職員の理解度を把握した上で、「拘束するとはどんな事か？」を事例を基に入居者様の安全・快適なケアに努めている。身体拘束の社内研修も実施している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「虐待は犯罪」という事を職員に発信している。拘束同様に介護サービス提供者として、言動への助言だけではなくOJTの一環でスキルアップに努めている。職員の心理的ストレスに対しては対話し、思いを聞き入れ、注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人の方が1名いるので、区担当者など行政の方からの情報提供並びに後見人との来訪時の会談・メールなどを通じて学ぶ機会を得られている。この分野は管理者だけではなく、エリアディレクター・施設職員・行政の三位一体で理解し、支援できる環境、体制作りに努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	今年1名入居され、本社・施設の受け入れ態勢や設備が構築されているので、今後も変わらない健全なる方針・スタンスで運営展開していく。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者並びにご家族等からご意見、不満等の声には記録に残して速やかに職員に伝え、周知対応にて早期解決、改善に取り組んでいる。また運営推進会議を利用し情報提供を行い助言をもらっている。ご家族に対しては、来客時、電話での運営に反映を図っている。（コロナ禍の為、状況に応じて）		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	元々リーダーからという立場だったためか、職員から意見が言いやすい環境作り・雰囲気作りが出来ている。内容にとっては本社へ働きかけ、提言としている。また、必要に応じて職員1人ひとりと対話の機会を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社（地域担当ディレクター）が適宜来訪して、管理者との情報交換や現場職員との対話で現状把握を図っている。管理者はリーダーと職員の評価を行い、必要に応じて面接を実施し、職員の現状把握とモチベーションアップに努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月、本社研修（必須）・社内研修（必須）外部研修・講座はスキルアップの一環で積極的に参加をしている。（コロナ禍の為、状況に応じて）		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	横浜市グループホーム協議会主催の研修情報などから、同業他社や他事業所での交流・助言等施設全体の底上げ・個人のスキル・レベル向上を狙った活動をしている。（コロナの状態、人員不足にて交流等は出来ていない）		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人が入居される前には、ご家族も含めサマリー等でのアセスメントを実施している。入居者が安心・安全で居心地の良い生活ができるように日々、環境整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	離れて暮らすご家族の不安心理は格別なものであると思っている。その思いを少しでもキャッチして、暮らしぶりや健康面の情報などを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談の段階では、入居を前提でお話するのではなく、ご家族に対して安心感を持って頂けるよう努めている。又、ご家族の方が何かを求めているのか等を見極めて、そのご家族にあったサービスを心掛けていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の大先輩である入居者の人格を尊重し、生活の中で症状、状態を把握して自立及び支援の姿勢を心掛けている。その方がその方らしく生活していくために、職員間で協力しながら今後も継続して取り組んでいく。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人及びご家族とは、電話や来訪時などに情報交換を図っている。このスタンスを保ちながら、更に工夫を重ねて信頼関係を深められるよう取り組んでいる。(状況に応じて対応している)		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所や人との関係が途切れないように心掛けている。現在は、誕生日のケーキを馴染みの所から届けてもらっている。(定休日でも対応して頂いている。(現在もコロナ、インフルで外出が出来ていない)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	性格の違う方達の共同生活のため、職員が一人一人の特徴をしっかりと捉え生活支援を行っている。時には入居者間のトラブルが発生してしまう事もあるが、早めに職員が対応することで、険悪な雰囲気や入居者が孤立等しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	今まで築き上げてきたご家族の関係を出来るだけ終わらせる事なく、電話や来訪時、外出で交流を保ち・情報交換に努めてきた。今後もこの方法で支援提供に取り組んでいく。（現在もコロナの状況により）		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症の状態が軽度の方・重度な方がおり、自分の意思を伝えることが出来る方・出来ない方など様々である。職員の働きかけや日常会話の中からその方の思いを引き出すよう心掛けている。そして、キャッチしたものを職員間で共有し、その方に合った生活支援を提供している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者の歩んでこられた生活の足跡や背景などの情報はしっかりと職員はとらえて支援している。入浴や散歩などの日常生活でのコミュニケーションは新たな発見情報の源・宝庫であり支援には有効策の一つとして取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員は、入居者一人一人の症状・言動の変化などに対して、情報の共有に努めて支援している。職員間だけではなく、医療機関、関係分野全てと連携し入居者の安全・安心生活に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者の日常生活や心身状態などを把握し、管理者や職員、ケアマネージャーを中心に、ご本人やご家族の意見・要望を取り入れて作成している。定期的にモニタリングをしチーム全体で支援提供している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者全員、毎日の生活の様子をタブレットにケース記録を残し、発語や症状、いつもと違う言動や様子などを特記項目として残し共有化を図っている。介護記録に残すだけでなく、必要に応じて医療・ご家族にも情報を提供し、入居者が安心できる生活環境作りに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	加齢と共に心身、状態などが変容してきている実態・現実をしっかりと捉えて、関係機関やご家族にも情報提供して柔軟な取り組みを実行に移す体制で努めている。（現在は、状況に応じて対応している）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	従来と同様に町内会長及び民生委員、地域包括支援センターや区役所担当者と交信・交流にて資源把握・確保を図っている。音楽療法などのボランティアに来訪して頂き、交流を図ることで入居者の癒し環境作り、豊かな暮らしが少しでも出来るための支援に努めている。（コロナの状況にて交流は延期にしている）		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	Dr・Nsの定期検診をし、（週1回）入居者様の医療的健康管理をDr・Ns・ご家族との連携によって、施設として適切な医療環境を提供出来るような体制で取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携の一環をして2週間に1回Ns巡回があり、訪問看護を実施している。入居者の日常生活や症状の異常に対して適宜情報交換にて助言・指示・駆けつけ等24時間の体制が整備構築されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	突発的または日々の観察による異変への気付きにはDr・Nsに連絡し指示を受けて対応している。関係する病院のDrやNs、関係者とは相談や情報交換を図って良好な関係の構築に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重症化や看取りに関する内容説明は、書面にご家族に説明し同意を頂いている。来訪されるご家族や遠方のため来所出来ないご家族など様々なので、書面以外にも電話にて要望や方針等の情報交換を行っている。また、運営推進委員会にも情報提供してチーム支援で取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急車要請時の心構えや行動については、日々の訓練、啓発で体得する必要がある。緊急対応マニュアルは整っているので、職員が少ない夜間帯を中心にしっかりと対応できる体制を取り、これからの実践力強化に努めていく。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設だけではなく地域住民の協力・制限は不可欠だと考える。火災や地震などの災害に対する支援要請を行ってきた。(防災機器の設置、点検、施設防災訓練、運営推進会議での施設防災情報表の掲示など) 防災活動には妥協無用で更に努めていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員一人一人が日々の生活支援の中で人格の尊重。プライバシー確保に努めている。この事を忘れることなく更にスキルアップ向上に努め、チームワークに取り組んでいく。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人の希望や自己決定をして頂く事を最優先としている。職員が毎日、声掛け・雑誌などお話をすることで、本人の思いや希望を引き出すよう心掛けている。また、職員からの一方的な促しはしないようにし、本人の意思を尊重するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	共同生活をする上での1日の流れは設定している。しかし、入居者の過ごされる習慣、ペース、その時の気分、身体状況などによって左右されるのは当然なので、常に柔軟性を持ち入居者支援・サービスの提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	オシャレや身だしなみで綺麗でありたいと思う事は、年齢、時代、老若男女問わずという考えで取り組んでいる。起床時に洗面、整容、季節感のある衣類の着用や購入、訪問理美容サービスの提供を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	加齢と共に食事摂取量が減少してきた方や、刻みやミキサー食へ変更になった方でも、食べる事は入居者の楽しみという事を職員は心得ている。お誕生日の日には、ホールケーキ、ご本人の食べたい物をなるべく聞き入れ召し上がって頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の栄養を考慮して契約指定業者よりメニューを含む食材発注を行っている。入居者と職員が同じテーブルで食事をする事で、摂取量や嚥下などの状態を観察、チェックし必要に応じてNsなどに情報提供し体調管理を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご本人で出来る方、出来ない方を含めて全入居者に声掛けや誘導をして、口腔ケア・義歯洗浄を行っている。また週一回の訪問歯科往診に入居者の口腔状態や義歯調整、相談を行い清潔保持に努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表にて、排泄リズム・頻度・状態等の把握に努め支援している。入居者によって排泄能力やパターンが違うので、その方に適合した介護用品を使用し、声掛けや指導、介助支援などの対応及びNsとの連携で行っている。また、羞恥心や自尊心にも配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	その方にとっては辛く苦しい便秘、便因を理解し、水分摂取の促し、提供・散歩やウ・対話等での運動、また、飲食物への好みの把握と工夫で予防支援に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に午前・午後（日中帯）が入浴タイム設定で提供支援を行っているが、入りたくないと言われる方もおられるので柔軟な対応を心掛けて支援に取り組んでいる。（温泉の湯を使用）当然、羞恥心や安全にも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その方の睡眠、安眠状態の情報を職員間で共有し、夜間の眠りが浅く安眠が出来ない症状の方には日中の運動・散歩・入浴・寝具交換等の気分転換にも図れるような支援提供に努めている。又、日中での飲食状態や離床時間を長くするように働きかけ、居室の空調などの環境作りにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	その方の個々に処方されている薬は異なる為に、現物と説明書はしっかりと管理されている。又、職員によるセット・服薬ミスさせない仕組みでダブルチェックで安全管理に取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除が大好き、食器拭きが大好き、歌が好き、洗濯物たたみ・ボール投げ、TV、塗り絵、散歩が楽しみ等様々で、その方の楽しみや楽しそうな笑顔を引き出す為、支援に取り組んでいる。1日の生活にメリハリをつけて気分転換が図れるように努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その方の希望やご家族からの要望がある時・ない場合でも出来る限りの外出支援（散歩・外食（2、3名））を行っている。又、地域で開催される行事には、町内会長様や民生委員の皆様のご協力で笹竹取り・地域縁日・敬老会などにも参加させて頂いている。（現在も中止）		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	GH施設の特徴から困難をに伴う支援だが、ご本人にとってお金は重要な想いであると職員は理解して取り組んでいる。日常の金銭管理は、施設にて立替し、翌月口座から引き落としをしている。ソラスト紙幣というものを作り、イベントに使って頂いている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	その方から希望・要望があれば適宜対応可能な環境を整えている。稀ではあるが、電話を掛けたいといったケースではプライバシー配慮も行っている。（お部屋にて）又、ご家族からの手紙に返信のケースでは、ご本人の要望で便箋・切手の購入・投函提供などの支援にも取り組んでいる。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	四季折々の行事に関する飾付けを折り紙など貼り絵で入居者様と職員と一緒に作り上げ掲示して皆で楽しめる教養空間作りに努めている。リビングフロアはもとより、トイレ・浴槽・各テーブルは特に清潔保持、動線での障害物無し、床の滑り無しの提供支援に努め、居心地の良い共用空間作りに取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1人でいたい時間帯や誰かと一緒にいたい心情など日々個々に違う。その思いや状態や受容・尊重して会話したり、TVを観たり、思い思いに楽しんで頂ける心地の良い場所作りに工夫を凝らして取り組んでいる。（年1～2回テーブルなどの変更をしている。）		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居された時のレイアウトはなかなか変更に対して困難なケースが多いのが実態で、タンスの中の衣類の入れ方、壁の掲示類（ご家族の写真・好きな絵など）仏壇や可愛がっているぬいぐるみ等、その方の安心できる居室環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内部の構造上での安全配慮として出来る限りの範囲内でバリアフリー化の改善に努めている。安全・安心を優先に遵法に沿って歩行通路幅の確保や動線域での障害物撤収やフロアのテーブルやソファのレイアウト変更にて車椅子、介助の方をトイレの近くにするなど努めている。		

2023年度

事業所名 グループホーム ソラスト勝田  
 作成日： 2024 年 2 月 28 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	31 32 33 34	入居者様の状態変化や高齢に伴い、重度化が進む中で看取り介護の方も受け入れしている状況である。Dr、ナースとの連携や介護職員間の統一が不可欠である。(コロナウイルス等も)	入居者様の状態を日々観察し、定期的に対処方法の検討や記録を詳細に残して行く。Dr, ナースとの情報交換を密に行い、連携を図って行く。(後方支援病院に登録)	入居者様の些細な状態でも、Dr, ナースへ伝え、その都度支持を貰い、職員間で統一し、ケアを対応して行く。(職員全員でのライン活用)(これからもコロナウイルスを持ち込まない)(救急対応もスムーズに対応)	12ヶ月
2	10	現在もインフル・コロナでもあるが、ご家族に対して要望意見を聞く機会を設けている。	介護や看護などの情報をご家族に発信し、ご家族との関係を密に行きたい。	電話での対応や御本人様の様子を伝える事や写真や動画(QRコード)を送るなど、ご家族の要望や意見を聞けるように心掛ける。(インフル・コロナの状況だが、その時の状況により面会を設けるようにする)	12ヶ月
3	13 14 26 36	職員のスキルアップの向上	介護技術、温かい心、ホスピタリティマインドを目指して行きたい。	職員全員が研修等に出来る限り参加し、(状況により)参加出来ない職員には、施設内研修を開き、向上、統一してケアを行っていく。(外部研修や会社内のソラスクール研修(動画)を進んで活用する)	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月